

アメリカ発



最新歯科医療レポート

Vol.11 リポーター：和田圭祐



和田圭祐=1970年5月9日生まれ。広島大学歯学部卒。名古屋大学医学部大学院で医学博士号を取得後、米国ハーバード大学大学院で歯学博士号取得。米国歯周病専門医。米国歯周病学会(AAP)認定医。現在ペンシルベニア大学歯学部でインプラント学ディレクターとして教鞭をとる傍ら、インプラント学術誌において世界最高峰といわれるJOMI誌の編集委員を務める。医療法人東陽会和田歯科医院インプラント・歯周病担当医

症例は28歳の男性です。「笑ったときに歯が大きすぎて不揃いなところがコンプレックスだったので治したい」と来院されました。前歯部は2本が治療不能と歯列不正のため抜歯がどうしても必要でした。抜歯後の状態は、大きく前歯部が陥没し、歯茎の高さも幅

コンプレックスを解消したい
今回取り上げる「歯肉移植術による前歯部欠損の審美性回復」は、我々歯周形成外科医にとって、もっともやり甲斐のある治療の一つです。

近年アメリカ社会では、コミュニケーションに於いて欠かすことが出来ない要素の一つに「笑顔」があります。その笑顔の中心となる前歯の歯科治療は、結果に満足できなければ訴訟にまで発展しかねない程、その要求が高い分野です。



写真1



写真2



写真3



写真4

面はそのままで、内側の部分だけをそいで使うので、取った後の傷は全く目立ちません。写真③。仮歯を入れた状態で、しばらくすると移植した歯肉が周りの歯肉になじむようになります。陥没が回復したら新しい歯を作成し、仮歯と

達成するためには、歯だけでなくその周りの歯茎についても十分なケアを尽くすことが、アメリカでの歯科治療のスタンダードになっています。美しい口元には、歯とそれを支える歯茎の健康の調和が必要不可欠なのです。



審美歯周形成外科

見た目や快適性を回復する歯肉移植術

も両隣りに比べかなり大きくなっていた。写真①。このケースでは陥没してしまっただ歯茎を元に戻すことからはじめます。
内側の歯肉部分だけを使う
陥没した歯茎を再生させるため、上顎の奥歯の裏側の歯茎を切開し、血液のかよった状態で陥没部位に歯肉移植をしました。写真②。表

交換して装着します。前歯の歯茎の陥没がなくなったことで、大きさが反対側と調和した歯を作ることができました。さらに食事の際に食べ物が陥没した歯茎の部分に引っかかってしまうことも解消されました。写真④。
歯茎にも十分なケアを
見た目と快適性を高いレベルで

WADA DENTAL OFFICE **M&Kインプラントオフィス福山** 院長 和田 勝 / アメリカ歯周病専門医 和田 圭祐
 福山市新市町新市726-1 (ムシバゼロ) **Tel. 0847-52-6480**
 詳しくは当院のインプラント専用サイトをご覧ください <http://www.wada-implant.net/>